

SHIMANE UNIVERSITY LIBRARY Annual Report 2012

島根大学学術情報機構
附属図書館年報



新たな附属図書館へ

去る6月14日に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」の基本施策8「学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換」の基本的な考え方は

- 学士課程教育においては、学生が主体的に問題を発見し、解を見だしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)や双方向の講義、演習、実験等の授業を中心とした教育への質的転換のための取組を促進する。

とされ、その主な取組の一つに「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」が掲げられています。

附属図書館の位置づけが近年急激に変わりつつあります。

知的情報の集積を担い、古典籍・史料をはじめとする図書の収蔵という役割は引き続き同じですが、新たに学修支援施設としての機能の強化が求められているのです。近く予定されている科学技術・学術審議会学術情報委員会の答申「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」が出れば、こうした方向性はいっそう強まるでしょう。

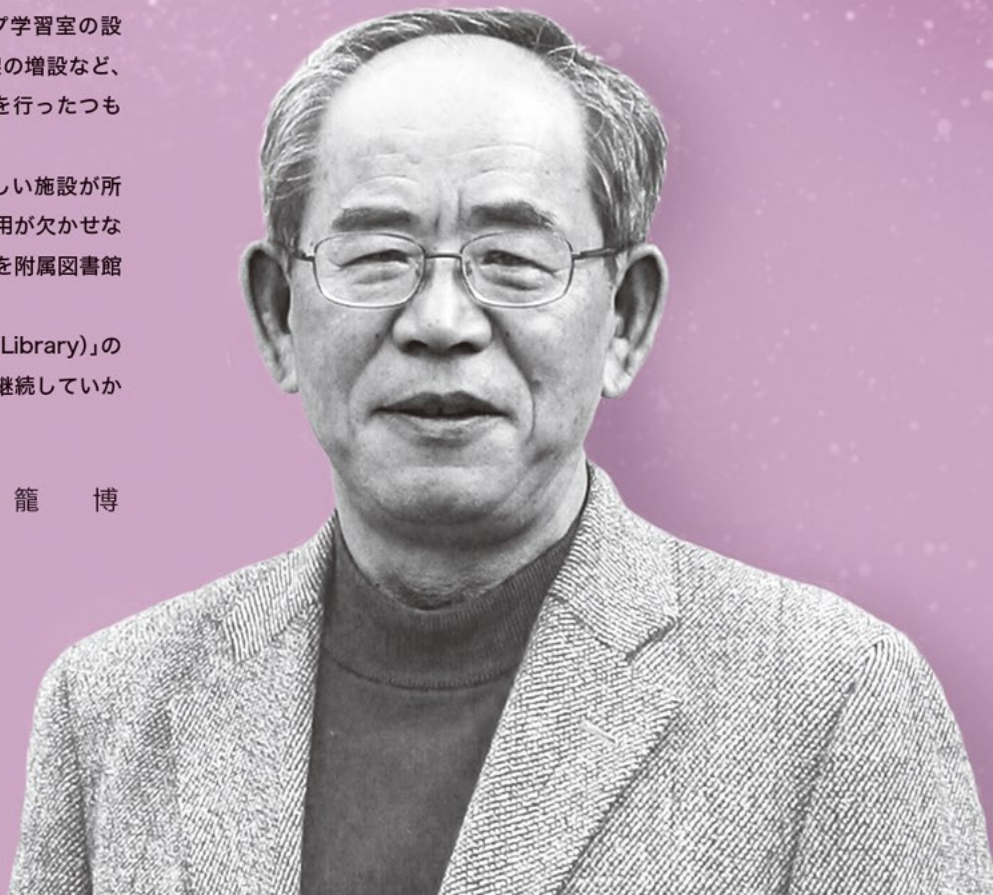
もちろん、学修支援は附属図書館だけが担うものではありません。学部や大学院の学修施設と連携してはじめて有効になるのですが、象徴的存在として附属図書館が位置づけられているわけです。

さて、ご存じのとおり附属図書館の本館は耐震・機能改修工事をふじに終え、4月4日にリニューアル・オープンを迎えることができました。ラーニングコモンズとグループ学習室の設置、館内のゾーニング(交流・学習・研究)、集密書架の増設など、今後の附属図書館の在り方を考慮した施設整備を行ったつもりです。

しかし、施設はあくまで手段にすぎません。新しい施設が所期の目的をはたすためには、利用者の積極的な利用が欠かせないことは言うまでもありません。そのための提案を附属図書館からも今後行っていきたいと考えています。

正面に大きく掲げた「附属図書館(University Library)」の名に恥じない存在であるために、今後とも努力を継続していかねばなりません。

附属図書館長 田 籠 博



Contents

Topics	4
図書館の動向	
・ 図書館コンシェルジュ	9
・ 学修支援	10
・ 学術情報基盤整備	11
・ 全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト	12
・ 研究開発室の活動状況	13
・ 社会連携	14
統 計	15
・ 利用者	16
・ 貸 出	17
・ 図 書	18
・ 図書館資料費	19
・ 雑 誌	20
・ 電子ジャーナル	21
・ Web サービス	22
・ 相互協力	24
・ 講習会	25
図書館日誌／刊行物／新聞・テレビ等の報道	26
人事異動	27

TOPICS

■本館耐震・機能改修工事

本館の建物は旧館部分が1978（昭和53）年築（経年33年）、新館部分が1984（昭和59）年築（経年27年）です。設備は老朽化し、耐震機能にも不安を抱えていたところ、2012（平成24）年度に耐震・機能改修工事が行われることが決定しました。

工事期間中は大幅に機能を縮小した仮設図書館でサービスを継続しましたが、日々の学修、教育、研究において利用者の皆様にご不便をお掛けすることになり、心苦しい1年でした。7月に新館部分から始まった工事は翌年2月にすべての建物が竣工し、3月の移転作業を経て4月にリニューアルオープンしました。



○スケジュール表

平成23年11月	図書館耐震・機能改修チームで検討開始
平成24年 3月	書庫内資料の移動作業
5月	第Ⅰ期長期貸出（新館）
6月	新館を閉館し、資料及び物品搬出
7月	新館工事開始 第Ⅱ期長期貸出（旧館）
8月	旧館を閉館し、資料及び物品搬出 仮設図書館、仮事務室設置
9月	旧館工事開始 仮設図書館開館
11月	新館竣工
平成25年 2月	仮設図書館閉館 旧館竣工
3月	資料及び物品搬入 仮事務室閉鎖
4月	リニューアルオープン

1. コンセプトの決定

2010（平成22）年以前に検討された図書館改修計画を基本として、旧館は全面（耐震・機能）改修、新館は部分（機能）改修工事が行われることになりました。新しい図書館への期待が一挙にふくらみ、他大学の状況調査や先行館の視察を行いながら、改修に向けた準備を進めました。

■耐震・機能改修チーム

図書館職員で構成する耐震・機能改修チームが結成され、新しい図書館のコンセプトや、移転作業、設備等の仕様などについて、並行して検討を行いました。

具体的な作業としては、まず現状を把握するためにすべての物品とその用途、施設の利用状況などを調べ、次に何が必要か、何に重点を置くのかを検討しました。業者によるイメージプラン図なども利用することで、空間イメージを、よりはっきりと持つことができました。その後、イメージが固まったところで、工事関係者に希望を伝えるためのヒヤリングシートを作成しました。

■コンセプト

建物・設備の老朽化に加え、書架スペースの不足、動線の悪さの解消が長年の課題でした。幸い全面改修が行われることになり、職員の様々な要望やアイデアを採用してもらうことができました。

主なポイントは、次のとおりです。

○明確なゾーニング

フロアを3つのゾーンに分け、ゾーンごとの機能やイメージを明確にする。エントランス付近は交流のための活気あるゾーン、奥に向かって学修のための静かなゾーンとし、ゾーンの機能にあわせたスペースを配置する。

○多様な学修形態への対応

これまでの自習中心の利用から、グループ学修や図書館資料を活用した授業にも対応できる学修環境を整備する。

○アクセスしやすい資料配置

利用者が理解しやすく、資料を効率的に利用できる配置にする。開架と書庫を対応づけ、資料へのアクセスを易くするため書庫をオープン化する。

○収蔵力のアップ

新規に電動集密書架を導入し、開架全体に余裕をもたせる。積層書庫の資料配置を見直すことで、10年先を見越した保存スペースを確保する。

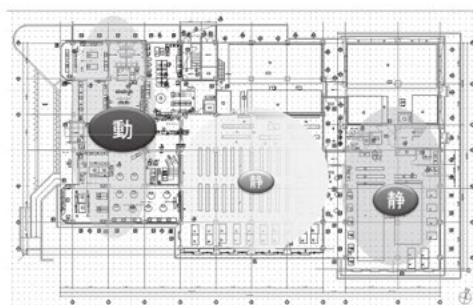
○安全な学修環境

防犯カメラを設置し、夜間も安心して利用できるようにする。

○環境への配慮

ペアガラス、人感センサー、LED照明等を採用し、省エネに配慮する。

交流・創造 ⇄ 学習 ⇄ 研究



ゾーニングのイメージ図

■レイアウト

コンセプトに従い、部屋や資料のレイアウトを図面上に描いていきました。

○活気のある交流ゾーンには、ラーニングcommonsやグループ学習室などを配置する

- 学生用図書は学習ゾーンを中心に置く
- 最も静かな研究ゾーンの奥に、集中して学修できる個室を設ける
- 学術雑誌は、研究ゾーンの電動集密書架に置く
- 閲覧室は4人掛け机を減らしてゆとりを持たせ、窓に面したカウンター席を配置する
- 郷土資料、小泉八雲資料は集約して3階に配置する
- 玄関付近の入りやすい位置に、資料展示のための設備を備えたスペースを設ける
- 貴重資料室の保存設備を充実し、近くに調査、研究が行えるスペースを設ける
- 文庫・新書や洋書など、開架と書庫に分散していた同種の資料は1か所にまとめて配置する

2. 資料移転

3階以上の積層書庫を除くほぼ全館が工事対象で、資料配置の見直しも含め、書架からの移動が必要となった資料は図書約40万冊とほぼすべての雑誌、貴重資料、視聴覚資料、マイクロ資料などでした。

■配架計画

コンセプトのひとつである「アクセスしやすい資料配置」にするため、積層書庫を含めた大幅な資料配置の変更を行いました。図書は分野により蔵書数が大きく違います。分野のバランスを考え、少なくとも10年分のスペースを確保するため、資料配置については何度も案を練り直しました。

雑誌はこれまで、製本雑誌と未製本雑誌が別な場所に置かれていたり、配架方法としてタイトル順と分野別が混在していたり、利用者にとって使いにくい面がありました。これらを解消するため、すべてをタイトル順とし、製本、未製本に関わらず集約して配架することにしました。

■仮設図書館の資料選定

仮設図書館に備え付ける図書は、設置可能な書架数から計算すると約4万冊で、改修期間中の受入増加分を見越し、3万7千冊程度と見当をつけました。図書の選定においては、まず授業に必要な図書を最優先としました。これは全教員に対してメールでアンケートを行い、移転対象図書のリストを作成しました。

次に、図書の貸出回数が一定数以上のもの約2万7千冊をリストアップしました。さらにこの中を精査し、最新版に変更したり、シリーズものを揃えたりというような細かい作業を行って確定させました。このほか移転対象とした図書は下表のとおりです。選定した図書は、他の図書と区別するため背にピンク色のシールを貼りました。この作業は、2012年3月にアルバイトを雇用して行いました。

仮設図書館への移転資料

学生用図書	27,000	授業関連図書	320	学術雑誌	300誌
参考図書	1,890	キャリア	800	一般雑誌	30誌
文庫・新書	5,000	留学生	260	新聞	全紙2~3ヶ月分
郷土資料	400	教科書	280		
新着図書	800	ガイドブック	250		
図書合計		37,000			

■移転（往路）

資料配置を全面的に見直したため、移転後に資料を戻す棚が移転前と異なります。資料の箱詰め、搬出、戻しは業者が行うため、理解しやすく間違いのおこりにくい手順と指示書が必要でした。箱詰め時点で、どこか書架へ戻すことになるかを明記しておく必要があります。対象となるすべての書架に1連単位で記号をつけ、移転先をこの記号により指示しました。1棚でも間違えると全体がずれるため、館内の書架を何度も確認してまわりました。大変な時間がかかりましたが、すべての書架について改修前後の指示書を作成し、業者に託しました。

6月に始まった新館の移転作業では、まず、ピンクシールが貼られた仮設図書館行きの図書をいったん旧館の空き書架に移し、引き続き利用できるようにしました。残りの図書は箱詰めされ、業者の倉庫で保管されます。黙々と箱詰めし、軽々とダンボール箱を持ち上げて積み出す作業の手際の良さに感心させられました。あっという間に書架はカラになり、搬出されるのを待つダンボール箱の長い行列ができました。

8月に入って旧館を閉館し、同様の作業が行われました。仮設図書館では閉館と同時に書架が組み立てられ、ブックトラックに乗った図書が次々と移されていきます。山のように積まれたダンボール箱を見つめながら、戻ってきた時に問題なく収まりますようにと祈るばかりでした。



車庫で順番を待つ列車のよう



倉庫に積まれた図書の山

■移転（復路）

2月末に建物が竣工し、3月と同時に多くの作業が一挙に押し寄せてきました。何もなかった空間に次々と書架が立ち、倉庫から戻ってきたダンボール箱が壁のように積み上げられました。箱に記載された書架の前に集められた後、次々と箱から出され並べられていきます。計画に時間をかけただけあって、資料はほとんど問題なく収まりました。

次に、図書が並べ終えられた書架へ仮設図書館の本を差し込んでいきます。4万冊近い図書を1冊ごとに分類番号を確認しながら戻すので、大変な作業でした。配架後、書架上のバランスを見ながら全体を調整し、なんとか開館に間に合わせることができました。この作業は、アルバイト7名を雇用して行いました。

■貴重資料の移転

第1貴重資料室のうち、大智度論、古地図、ラフカディオ・ハーンの直筆書簡など、特に重要なものについては松江歴史館の収蔵庫で保管してもらうことができました。職員が梱包し、直接運搬しました。

ダンボール箱に詰められないその他の貴重資料や和装本も、職員の手で中性紙箱に収め、学内倉庫で保管しました。貴重資料室に収蔵する資料は、普段ほとんど点検などすることはありません。蔵書点検を兼ね、資料全体を把握するまたとない機会になりました。

3. 事務室と閲覧室の移転

試験期間の7月下旬から8月上旬にかけて、旧館のみ開館している閲覧室は連日満員となりました。座席数の不足には長机やイスを追加して対応しましたが、それでも不足は否めません。すでに開始された新館工事の振動も伝わってきます。埃や騒音で窓も開けられませんが、辛抱してもらおうしかありません。試験が終わると同時に本格的な作業が始まるため、気持ちが引き締まる思いで8月を迎えました。

■代替施設の確保

工事中の代替施設の確保は難航しました。仮設図書館は新築プレハブでという案も出ていましたが、書架と4万冊近い資料を入れるための耐荷重がネックとなり、最終的には大学会館の2階南側の全フロアを使うことに決まりました。

事務室はこれまでも企画・整備グループとサービスグループで分かれていましたが、仮事務室も、サービスグループは仮設図書館のそばに置いたため大学会館へ、企画・整備グループは総理工学部2号館3階に、担当ごとに分散するという案に落ち着きました。

■物品移転票

リストアップした現有物品のすべてについて、「継続使用」「倉庫保管」「廃棄」を決定し、行き先を記載した色別の移転票を貼りました。現場では細かな行き違いがおきることもありましたが、業者には臨機応変に対応していただき、スムーズに搬出を終えることができました。

新しく買い替えるもの、置き場所のなくなるもの、使用の目途のないまま放置されていたものなどが大量に出てきました。壊れているものはともかく、まだ十分使えるものは廃棄すべきかどうか、ひとしきり悩みます。「何かに使えるかも」「とりえず残す」は禁句で、大量にあった予備の棚板なども、これを機に思い切って処分しました。

■サーバ類の移転

什器類とともに重要なのが、PC、サーバ類の移転です。HPから提供している電子資料、OPAC、業務システムは引き続き稼働させるため、サーバは総合情報処理センターへ移転設置し、メディアルームにあった利用者用のPCは、総合情報処理センター、法文学部分室、生物資源科学部分室で分散保管することになりました。デリケートな機器類であるため、移動は専門業者が行いました。

■移転前の長期貸出

資料が長期間利用できなくなるため、特別ルールによる閉館前の長期貸出を行いました。早い時期から教員、学生に周知し、必要な資料は研究室または個人で確保してもらうよう理解と協力を求めました。

■書架の解体

閲覧机や資料がすっきり運び出された閲覧室で、最後に書架の解体が始まりました。専門業者が手際よく解体していき、次第に図書館としての形を失っていきます。すべての書架が



あつという間に空っぽになった閲覧室

撤去されると、柱だけが残る大きな空間が出現しました。新築当時の鮮やかな色のままのカーペットの跡が規則的に残り、そこに書架が立っていたことがわかります。

4. 仮設図書館

8月の閉館とともに、仮設図書館となる大学会館2階で書架の搬入、組み立てが始まりました。設置されてみると高さはほぼ天井いっぱい、あまりの空間の狭さに息苦しさを感ずるほどでした。しかし、慣れてくるとそれはそれで心地いい狭さとなり、様々な面で小回りがきいて便利なことも事実でした。

狭い館内には入館ゲートを置けないため、退館ゲートのみで、無断持ち出しのチェックを行いました。



天井まで届きそうな書架

■仮設図書館でのサービス

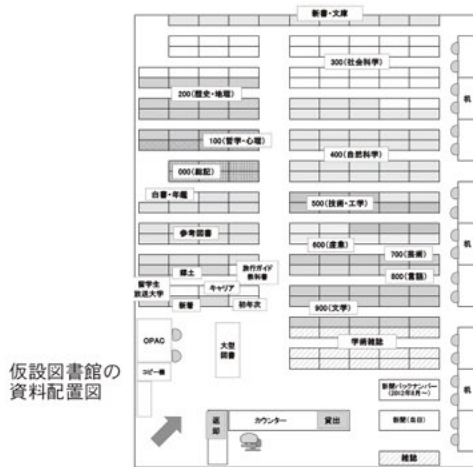
冊数が少ないため、図書の貸出は5冊1週間と大きく制限しました。コピー機は、最も利用の多いコイン式モノクロコピー機を1台備え付けました。研究費コピーカードの使用やカラーコピーには、資料の一時貸出で対応しました。

学外からの文献複写や図書の取り寄せには、可能な限り応じました。箱詰めで利用できなくなった所蔵図書をILLで取り寄せる際には、返送料を補助するサービスも設けました。取り寄せが激増するのではと予想していましたが、利用者側も事前の長期貸出等に対応できていたためか、利用はわずかでした。

資料提供を優先し、かなりのスペースを書架にあてたため閲覧席はわずか18席でした。試験期には座席不足に対応するため、各学部において自習室を確保していただきました。また、仮事務室に近い1室を、学部共通の自習室として開放しました。

閉館後は大きなイベントができないため、例年秋に実施していた蔵書リユース市、学生選書ツアーなどは、閉館前の5月～6月に前倒して開催しました。

対象		貸出期間	貸出冊数	返却期限	実績
研究室	第Ⅰ期 (新館)	5月14日～5月31日	・個人研究室 100冊 ・学科、講座等資料室 200冊程度	4月26日	73研究室 5,812冊
	第Ⅱ期 (旧館)	7月23日～8月3日			
個人	第Ⅰ期	5月21日～5月31日	・教員 20冊 ・大学院生、4年次生 20冊 ・学部学生 10冊	7月10日	2,200冊
	第Ⅱ期	7月31日～8月10日		4月15日	



仮設図書館の資料配置図

■開館中の統計

開館期間	2012年9月10日～2013年2月28日（土日、祝日は閉館）
開館日数	112日
開館時間	8:30～17:00 * 夜間延長の希望があったため、12月3日以降は 8:30～19:00 * 長期休業期間中は 9:00～17:00
利用者数	20,162人
貸出冊数	6,958冊

5. 改修後の図書館

旧館北側、南側の耐震フレーム、閲覧室と書庫の一部に設置された鉄骨ブレースにより耐震性がアップしました。耐震工事が予想より小規模で済んだため、フロア面積はほぼ維持されました。また、全館を対象とした機能改修工事を行い、次のように環境を整備しました。

■機能改修工事

- 1階交流ゾーンは仕切りを取り払い、見通しの良い広々としたスペースに
- 2階学習ゾーンは閲覧室手前にガラス扉を設置し、遮音性をアップ
- 閲覧室はOAフロアとし、パソコンの持ち込みや無線LANの利用をサポート
- 1階研究ゾーンの床を補強し、収蔵力アップのための電動集密書架を設置
- ほぼすべての窓に遮光性の高いブラインドと網戸を設置
- 空調設備はフロアや部屋ごとの操作、設定を可能とし、省エネに配慮
- 第1貴重資料室には調湿壁や杉材を用い、大型ラック等を追加して保存性能をアップ



杉板張りの貴重資料室



閲覧室に設置された電動集密書架

- 館内各所に防犯カメラを設置し、安全、安心な学修環境を提供
- 携帯電話専用のブースを館内3か所に設置
- 資料展示のため展示室にピクチャーレール、照明を整備
- 壁面を利用したシステムウォールを設置し、掲示や展示など多目的に利用
- 多目的室に会議システム、プロジェクタ、スクリーンなど映像、通信設備を整備
- 積層書庫各階に、除湿機と人感センサー付き照明を設置

■什器類の選定

閲覧室は、机やイスの選び方次第でイメージが変わります。館内の什器類は、機能性ととも、統一感のある色や素材のものを選定しました。ラーニング commons の周辺は明るい色で、移動や組み合わせが容易なものにしました。閲覧机は、1人用、4人用、カウンタータイプなどを用意し、好みに応じて使用できます。イスは見た目よりも使い心地が肝心です。ラウンジや中庭には、遊び心のあるデザインのイスも揃えました。



イス選び

■サイン計画

これまで館内には案内板などのサイン類がなく、わかりにくい状況がありました。雰囲気作りも兼ね、ゾーンカラーを効果的に使用したデザイン性のある室名表示や案内サインを設置しました。

タイムリーな情報提供のため、広報はますます重要になってきています。通常の掲示物やポスター用には、目立つ場所に大きな掲示板を取り付けました。また、人通りの多い場所にはデジタルサイネージを設置し、効果的に利用しています。掲示コーナーのほかには、内容の更新がしやすい掲示用パネルやフロアスタンドを使用し、館内の美観を損ねないようにしました。

6. 周辺環境の整備

閲覧室南側の窓から見える景色といえば、伸び放題の草と放置自転車。池は防火用水の役目も果たしていましたが、毎年汚れがひどく管理も大変でした。現場事務所設置に伴い埋めることに決まり、一帯はキャンパスプラザの延長として整備されました。

図書館の正面に目を向けると、エントランスの庇が延び、雨天でも濡れなくてすむようになりました。外壁には、存在感のある「附属図書館」の文字が取り付けられました。夜間は学生を誘うようにライトアップされ、温かい雰囲気を出しています。



南側キャンパスプラザの整備

TOPICS

■ 松江に全国の図書館関係者が集う

10月25日、26日の2日間にわたり、松江市を会場に全国図書館大会島根大会（大会テーマ「文化を伝え未来を創る図書館 古事記編纂1300年 神々の国しまねから」）が開催されました。

この図書館大会は、社団法人日本図書館協会主催のもと、明治39年からほぼ毎年開催されている歴史あるイベントで、今年で98回を数えます。全国から図書館関係者が一堂に会し、図書館が直面している諸課題について研究協議することで、図書館活動の一層の活性化を図ることを目的としています。

島根県が会場となるのは2回目で、前は1975（昭和50）年、実に37年ぶりの開催でした。参加者が1,000人規模の大規模なイベントとあって、会場も島根県民会館、くびきメッセ、島根県立大学松江キャンパスの3箇所を使って行われ、館種やテーマに応じて設けられたバラエティに富んだ12の分科会が組まれました。島根県立図書館を中心に、県内図書館が館種を超えて運営に携わり、盛会のうちに終わることがで

きました。また、第2分科会（大学・短大・高専図書館）では、島根大学の図書館コンシェルジュの活動報告を行うなど、大学図書館における学修・教育支援についての理解を深める良い機会になりました。

【2012年10月】



■ 『島根の国絵図—出雲・石見・隠岐—』 を出版

現在の島根県の出雲国、石見国、隠岐国で作成された国絵図（古地図）を豊富なカラー図版と解説で構成した『島根の国絵図—出雲・石見・隠岐—』を出版しました。

国絵図は、江戸幕府の命で国毎に作成されて幕府に献上されたものです。また、献上されたものの他に、藩の行政目的のために藩独自に作成されたものや、献上図の写しが様々な形で作成され、使用されてきました。

本書は、本学附属図書館が収蔵した国絵図の他に、広く県内外の機関や個人が所蔵する国絵図の写真85点を集め、専門の研究者による解説を加えたものです。さらに、伊能忠敬による「伊能図」を経て、明治初期に近代地図が成立するまでの過程をたどりました。

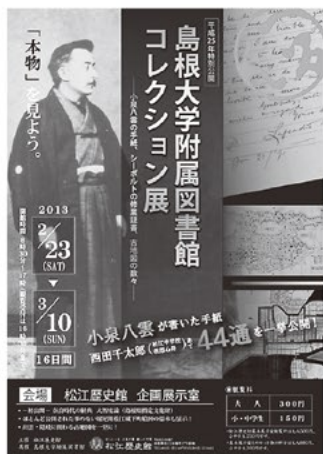
島根県の出雲・石見・隠岐の国絵図を体系的に集めて解説した本は本書が初めてであり、また、都道府県単位でまとめ

た類書は他にほとんど例のないものです。さらに、本書掲載の国絵図のうち65点を本学附属図書館のデジタル・アーカイブに掲載し、本書を読み進めながらインターネット上で国絵図の画像を拡大表示して見ることができるようになることで、国絵図を詳細に閲覧したい読者の便宜を図っています。

【2012年12月】



■ 松江歴史館で「島根大学附属図書館コレクション展」を開催



附属図書館の改修工事に伴い、貴重資料室に保管されていた貴重資料の一部を、松江歴史館のご厚意により、収蔵環境が整っている同館に一時預かっていただくことができました。さらに、この機会を利用して、同館主催による附属図書館コレクション展を開催しました。

奈良時代の経典注釈

書「大智度論」やシーボルトの修業証書、「堀尾松江城下町絵図」をはじめとする古地図数点、小泉八雲の自筆書簡など、これまで展示設備の関係から実物の展示が難しかった資料の数々を、一堂に展示することができました。

16日間の開催期間中に約1,400名の入場があり、図書館のコレクションを市民の皆様に見て頂くよい機会となりました。

開催期間：2013（平成25）年2月23日～3月10日
会場：松江歴史館 企画展示室
主催：松江歴史館
共催：島根大学附属図書館

【2013年2月】

図書館の動向

図書館コンシェルジュ

図書館コンシェルジュは、図書館におけるピアサポートと学生の視点によるサービスの改善を企図して、2010（平成22）年度から活動を開始しました。教育開発センターとの連携事業として、全学のピアサポートプログラムの一環として実施しているものです。

3年目となった2012（平成24）年度は改修工事のため前期のみの活動となりましたが、13名のコンシェルジュにより、従来から日常の活動の2本柱としていた「図書館利用サポート」「業務サポート」のうち、「図書館利用サポート」のみを実施しました。

1. 図書館利用サポート

(1) 実施概要

図書館利用サポートは、ピアサポーターとしてのコンシェルジュが、図書館利用に関する様々な質問を受けて案内を行うものです。質問の内容は、資料の探し方や文献検索の方法、PCやプリンターの使い方など多岐にわたります。サービスカウンターでサポートを行った他、閲覧室で図書の返却作業を行いつつサポートを行いました。

(2) 実施状況

今年度は前年度の半分に満たない活動期間でしたが、総質問件数（763件）では前年度（822件）に迫る件数となりました。実施率をコンスタントに高い率で維持できたこと、3年目となりコンシェルジュの認知度が向上してきたことなどが理由として考えられます。コマ当たりの質問件数も、1.7回から2.3回に向上しました。利用サポートをより効果的に実施するために、今後はサポートを受ける学生の側に立った調査を実施し、サポートに活かしていく予定です。

■利用サポート実施状況

2011（平成23）年度

月	活動可能 日数	A) 活動可能 コマ数	B) 活動した コマ数	実施率 (B/A)	C) 質問件数	コマ当たり 質問件数 (C/B)
6月	21	126	114	90.5%	303	2.7
7月	20	120	105	87.5%	197	1.9
8月	6	36	16	44.4%	27	1.7
10月	20	120	79	65.8%	108	1.4
11月	20	120	75	62.5%	91	1.2
12月	18	108	50	46.3%	61	1.2
1月	18	108	37	34.3%	35	0.9
2月	11	66	7	10.6%	0	0.0
合計	134	804	483	60.1%	822	1.7

2012（平成24）年度

月	活動可能 日数	A) 活動可能 コマ数	B) 活動した コマ数	実施率 (B/A)	C) 質問件数	コマ当たり 質問件数 (C/B)
5月	17	102	92	90.2%	245	2.7
6月	20	120	106	88.3%	264	2.5
7月	21	126	113	89.7%	213	1.9
8月	5	30	22	73.3%	41	1.9
合計	63	378	333	88.1%	763	2.3

2. 学生協働交流シンポジウム

大学図書館で活動する学生協働スタッフが各大学での取り組みを共有することで、学生協働の意義を明らかにし、各活動のさらなる発展を目指した交流シンポジウムを開催しました。2011年9月に山口大学で第1回を開催し、今回が第2回となります。山口大学、梅光学院大学、島根県立大学(浜

田・松江)、島根大学の4大学を中心に、学生がつくるシンポジウムとして学生協働スタッフが計画・運営し、学生・教職員83名が出席して、各大学の活動報告やパネルディスカッションを行いました。

第1日目 シンポジウム

日時：2012（平成24）年9月10日（月）

会場：島根県立大学浜田キャンパス 交流センター2階
コンベンションホール

プログラム：

開会挨拶 井上厚史島根県立大学メディアセンター長

基調講演 島田正樹浜田市図書館準備室室長

学生による活動報告

島根大学 木南成明ほか

山口大学 山元智美

梅光学院大学 澤田瑞穂ほか

島根県立大学松江キャンパス 周藤彩ほか

島根県立大学浜田キャンパス 宮崎彩ほか

パネルディスカッション 司会：上村希世美ほか（山口大学）

閉会挨拶 井上厚史島根県立大学メディアセンター長

第2日目 施設見学・意見交換会

日時：2012（平成24）年9月11日（火）

プログラム：

島根県立大学メディアセンター見学

学生・職員分かれての意見交換会

浜田市世界こども美術館見学

活動見学：読み聞かせサークル「ゆるりの会」（島根県立
大学浜田キャンパス）

今年度は改修工事のため、残念ながらここで得られた経験をすぐに活動に活かすことはできませんでしたが、参加したコンシェルジュ5名にはそれぞれ刺激となったようです。今回初めて意見交換会が設けられ、交流シンポジウム自体の改善点等が話し合われました。2013年度は島根大学を会場として開催予定です。



「半年間だったけど、楽しかった！」

図書館の動向

学修支援

図書館は学修支援のための様々な資料や関連情報を収集・提供し、それらを有効に活用するための講習会を開催しています。カリキュラムやシラバスを意識した資料収集に努め、積極的に教員に働きかけ、授業と連携した情報リテラシー教育を行いました。

1. 授業関連図書の収集

シラバスに掲載された参考図書の整備を継続して行いました。また、年度初めには学科・講座等から、授業に必要な参考図書を選定して推薦してもらいました。

■推薦図書購入実績

本館

年度	購入冊数	金額(千円)
2008	507	2,380
2009	655	2,680
2010	658	2,560
2011	780	2,850
2012	726	2,804

医学図書館

年度	購入冊数	金額(千円)
2008	744	4,480
2009	666	4,820
2010	550	3,910
2011	572	4,226
2012	661	4,262

ユートリアル教育のために、チュートリアル・CBT委員会が選定した図書を集めた「チュートリアル教育用図書コーナー」を設置しています。これまで改版等を中心に入れ替えをしてきましたが、今年度は大幅な見直しを行い、新たに約200冊の図書を整備し、合計タイトル数は533冊となりました。この図書は館内利用のみとして、より多くの学生が利用できるようにしています。

3. 本館図書特設コーナーの設置

医学図書館では、改修工事のため利用できなくなる本館の図書の一部を借り受け、9月～2月限定で特設コーナーを設け、貸出できるようにしました。主に、文学や芸術、郷土資料など211冊で、延べ110回の貸出がありました。医学図書館では医学・看護学の専門書がほとんどのため、この試みは、学生の興味や読書の幅を広げることにつながりました。

4. パスファインダーの作成

本館では、1年生を対象とした授業「スタートアップセミナー」と連携し、職員が7つのテーマについてパスファインダーを作成しました。さらに、このパスファインダーを使って資料を探したり、情報収集する学生のサポートを図書館コンシェルジュが担当しました。

2. 授業関連図書コーナーの設置

(1) 本館

2010(平成22)年度から「初年次教育・授業関連図書コーナー」を設置し、主に初年次教育プログラムの授業科目に関連した必読書、推薦図書を置いています。今年度はタイトル数が増え、さらに充実してきました。貸出回数は、仮設図書館での開館だった後期は減少しましたが、逆に前期では増加しました。コーナーの認知度が上がり、利用があたり前となるよう、今後も周知が必要です。

(2) 医学図書館

2001(平成13)年度から医学科4年生を対象に始まったチ

5. 利用講習会

学術情報リテラシーの育成のために各種利用講習会を行っており、教員の申し込みに応じた内容で行うオンデマンド講習会が定着してきています。本館では4～6月は申し込みのラッシュで、今年度は改修工事のため、特に前期に集中しました。メールでの案内や口コミにより、新規の申し込みも増えています。

自発的に参加する学生が少ないため、授業を利用した講習会は多くの学生に一度に伝えることができるので効果的です。講習の内容が活かされるよう授業を工夫してもらえば、さらに効果がアップします。

■初年次教育・授業関連図書コーナーの利用状況(本館)

	2010				2011				2012			
	授業科目数	タイトル数	貸出タイトル数	貸出回数	授業科目数	タイトル数	貸出タイトル数	貸出回数	授業科目数	タイトル数	貸出タイトル数	貸出回数
法文学部	3	24	22	47	4	25	22	68	4	23	17	45
教育学部	3	21	9	16	3	21	18	55	3	25	21	71
総合理工学部	8	56	23	53	8	56	32	141	9	60	34	109
生物資源科学部	4	27	17	54	4	27	22	78	5	39	25	63
合計	18	128	71	170	19	129	94	342	21	147	97	288

■ 学術情報基盤整備 —電子ジャーナルの充実に向けて—

本学では2001（平成13）年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的な観点にたつて複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び文献データベース等の計画的な整備を行ってきました。全学共通経費を主な財源としたこの整備計画は3年ごとに見直しを行い、2012（平成24）年は「第4期学術情報基盤整備計画（平成22-24年）」によって、電子ジャーナル（主要出版社、合計約10,000タイトル）に加えて、引用文献データベース、アクセスツール及び文献管理ソフト等を整備しました。また、2013（平成25）年から3年間の計画として、「第5期学術情報基盤整備計画（平成25-27年）」を策定しました。

なお、化学系、医学系、工学系など一部の専門分野固有の電子ジャーナルパッケージや個別タイトルについては、部局経費により契約し、利用に供しています。

1. 第5期学術情報基盤整備計画（概要）

（1）対象とする電子ジャーナル

本整備計画が対象とする電子ジャーナルは、複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるものとする。特に共通性が高く、重要と判断される個別タイトルについては、コア電子ジャーナルとして本計画の対象とする。

（2）バックファイル等電子資料の整備

年間契約する電子ジャーナルの対象範囲に含まれないバックファイルについても本計画の対象として整備を進める。利用できる電子ジャーナルが少ない人文社会科学分野を対象とする電子資料の整備についても留意する。

（3）利用環境の整備

電子ジャーナル等を迅速・効率的に利活用するために必要なデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ツールの整備を継続して進める。大学構外からも電子ジャーナル等を利用できる環境の充実を図るとともに、携帯機器を用いた利用の支援など、より一層の利便性向上に努める。

（4）導入経費等

本計画における電子資料の導入経費には、全学共通経費、部局経費及び間接経費等を充てる。また、出版者等との契約

にあたっては、市場調査のほか、JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)などの関係団体とも連携しながら価格交渉を行う。

2. 学術情報基盤整備をすすめる上での課題

電子ジャーナルは、論文数増大に伴う編集コストの上昇や大手学術出版社による寡占化の進行などによる恒常的な購読価格上昇により、いずれの大学においても購読を維持することに苦慮しているところです。

この問題に対応するため、全国の国公私立の大学図書館は2011年4月に大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）を結成して、出版社と価格交渉を進めています。また、SPARC Japan(※) や機関リポジトリ(※) などによる学術論文のオープン・アクセス運動も続けられていますが、電子ジャーナルの価格問題の根本的な解決には至っていません。国内外の動向に注視しつつ、本学の研究・教育に必要な学術情報基盤を維持するために、大学全体で問題意識を共有し、購読経費を工夫していく必要があります。

※SPARC Japan…日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進することを目的として国立情報学研究所が実施している国際学術情報流通基盤整備事業

※機関リポジトリ…研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

■ 提供している電子ジャーナル・データベース等

2013(平成25)年

電子ジャーナル/データベース名称	概要
Elsevier SciVerge ScienceDirect	Elsevier社の雑誌 約2,200タイトル
Wiley Online Library	Wiley-Blackwell社の雑誌 約1,400タイトル
SpringerLINK	Springer社の雑誌 約1,700タイトル
Cambridge Online Package	Cambridge Univ. Pressの雑誌 約300タイトル
Oxford Online Package	Oxford Univ. Pressの雑誌 約250タイトル
JSTOR : Art Sci. I, Health & General Sci.	学術雑誌バックナンバーのアーカイブ 約250タイトル
ProQuest Research Library, Health and Medical Complete	学術雑誌リソースおよびデータベース約6,000タイトル
Nature & Research誌	Natureとその姉妹誌 合計5タイトル
PNAS	米国科学アカデミー紀要
Science	米国科学振興協会発行の学術雑誌
Cell	セル出版発行の学術雑誌
New England Journal of Medicine	マサチューセッツ内科学会発行の学術雑誌
Web of Knowledge(Web of Science + JCR)	引用索引データベースと雑誌のインパクトファクター
SFX (EJ管理ツール)	電子ジャーナルの管理およびリンクリゾルバ
360Search (横断検索DB)	学術情報データベースの横断検索ツール
RefWorks (文献情報管理ツール)	文献情報管理および論文作成支援ツール

※Web of Knowledgeのうち、CCCは2013年中止

図書館の動向

■全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクト

全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトは、本学附属図書館が全国の大学に呼び掛けて推進する遺跡の発掘調査報告書を電子化してインターネット上に公開するプロジェクトです。学術機関リポジトリの普及を背景にして、少少数発行で入手が困難な灰色文献である発掘調査報告書に着目し、考古学分野の主題分野別リポジトリとして開始したもので、2008（平成20）年度の開始当初から国立情報学研究所（NII）の最先端学術情報基盤整備（CSI）事業の委託を受けて推進してきましたが、2012（平成24）年度をもって5年間に亘ったCSI委託事業は終了しました。

1. これまでの達成状況

(1) 参加地域の拡大

プロジェクト開始からの5年間で、参加地域は27府県へと拡大しました。2011年度までの参加地域は、参加府県の中核となる大学図書館が仲介しつつ事業を推進する「大学図書館モデル」によるもので、2012年度の参加地域は、大学図書館を介さずに自治体等の担当部署が直接プロジェクトに参加する「広域モデル」（後述）によるものです。現在は、この2つのモデルが併存する形で事業を推進しています。

都道府県レベルでは全都道府県数の半数を超えましたが、市町村レベルでは、現在参加している市町村等の機関は全体の約25%です。

■参加地域図



(2) コンテンツの拡大

これまでに発行された発掘調査報告書の正確な刊行点数は不明ですが、プロジェクトを開始する2008年度の時点で、約6万点あると言われていました。全国で毎年新たに発行される報告書の点数は、2011年度から統計*1が公表されています。これによると、2010年度に刊行された報告書は、都道府県418冊、市町村1,320冊、合計1,738冊であり、年間に2,000冊弱の報告書が刊行されていることが分かります。

プロジェクトを開始してからの5年間に電子化した冊数は、13,779冊（ページ換算で約150万ページ）で、これまでに刊行された報告書の約5分の1にあたります。電子化は、NIIのCSI委託事業費のほか、毎年、科学研究費補助金研究成果公開促進費の補助を受けて行いました。

*1 文化庁文化財部記念物課。埋蔵文化財関係統計資料。2012.3

2. 2012年度の取組み

NIIのCSI委託事業の最終年度である2012年度は、事業終了後も本プロジェクトが自律的に参加自治体を拡大し、登録コンテンツ数を増大させていくために必要な事業に重点をおきました。

(1) 広域モデルの実証実験を開始

2011年度までのプロジェクトである「大学図書館モデル」は、大学図書館にプロジェクトへの参加意思がなければ新たに参加自治体を拡大することができませんでした。今後も参加自治体を持続的に拡大していくためには、都道府県や市町村などの自治体が直接プロジェクトに参加できる事業モデルが必要とされたことから、2011年度から、自治体が直接参加できる「広域モデル」に対応したシステム開発を行ってきました。

2012年度は、国立文化財機構奈良文化財研究所と連携研究の協定を締結して、同研究所と共同で「広域モデル」の実証実験を開始しました。実証実験は、NIIの共同サーバ上に構築した広域版遺跡資料リポジトリを使用して実施しています。これまでに8つの自治体、埋蔵文化財センターが参加して報告書のセルフアーカイブを進めつつ、「広域モデル」のシステム面及び運用面の評価を行っています。

(2) シンポジウムの開催

遺跡資料リポジトリの普及・拡大のために毎年シンポジウムを開催しており、2012年度は大阪大学を会場に開催しました。大学図書館関係者や自治体関係者など、58名の参加がありました。

3. プロジェクトのこれから

(1) 大学図書館の事業から埋蔵文化財行政の事業へ

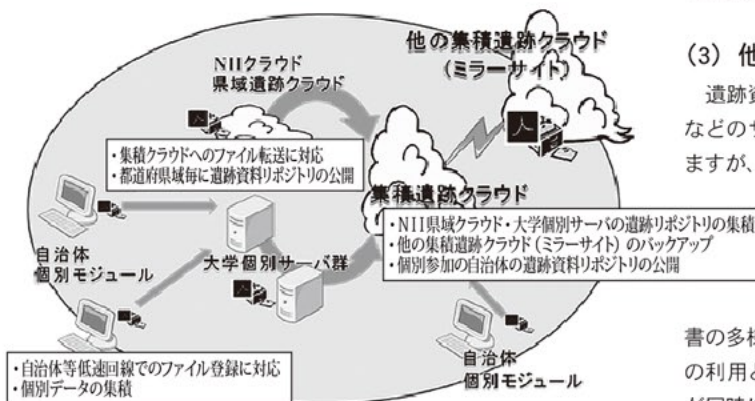
灰色文献としての発掘調査報告書の可視性を高め、必要とする人が誰でも利用できる環境を作り上げることを目指してスタートした本プロジェクトは、大学図書館が先導的な役割を果たしながら一定の成果を上げることができました。今後さらに拡大を続け、将来に亘って安定的に運用していくために、3年以内に事業の主体を奈良文化財研究所へ移行すべく、同研究所と協議を進めています。

(2) 広域モデルから集積モデルへ

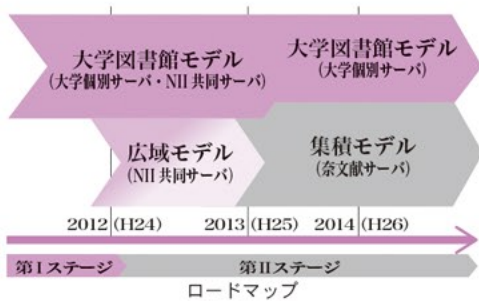
奈良文化財研究所に構築する遺跡資料リポジトリは、「広域モデル」の発展型としての「集積モデル」です。「集積モデル」は、他の遺跡資料リポジトリに登録されているメタデータとコンテンツをハーベストして集積する機能を持つものです。この機能により、都道府県毎に、または広域モデルとして分散構築

されているすべての遺跡資料リポジトリのメタデータ及びコンテンツを集積することが可能となり、集積されたデータを活用した新たなサービスの創出に道を開くことができます。

また、現在NIIの共同サーバ上にある広域版遺跡リポジトリは、将来、集積版へのバージョンアップを図ることで、奈良文化財研究所とNIIの集積版遺跡資料リポジトリが互いにミ



遺跡資料リポジトリの将来イメージ

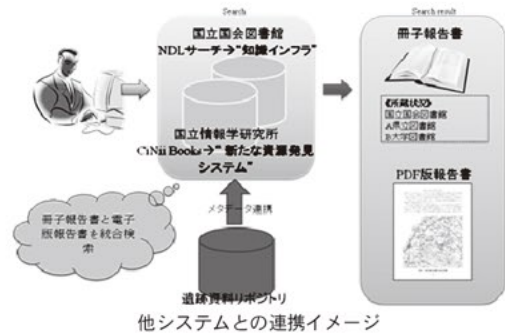


ロードマップ

ラーリングするようなシステムの運用の可能性を検討しています。このような運用によって、双方において、集積されたデータを新たなサービスに活用することができるようになるほか、大規模災害時にデータの消失を防ぐとともに、停電などによるシステム休止時にも他サイトがサービスを代替して安定したサービスを提供することが可能な体制を作り上げることができます。

(3) 他システムとの連携による新たなサービス

遺跡資料リポジトリに登録された発掘調査報告書は、Googleなどの検索エンジンで検索できるため視認性は高いと言えますが、他のシステムと連携することによって、さらに報告書の発見と多様な活用に道を開くことができます。例えば、国立情報学研究所のCiNii Books、国立国会図書館のNDLサーチや知識インフラ構想によって実現される新たな枠組みにおいて、発掘調査報告書の多様な利活用が期待されます。具体的には、PDF版報告書の利用と冊子版報告書の各種図書館における所蔵状況の確認が同時にできる環境が実現されます。



■ 研究開発室の活動状況

附属図書館研究開発室は、図書館業務やサービスの向上を目指して、室員が専門的な立場から特定課題についての研究開発を行うために2006（平成18）年に設置されました。2012（平成24）年度は、政策的配分経費「附属図書館研究開発室による教育・研究支援及び地域貢献プロジェクト」の経費配分を受けて、次の活動を行いました。

1. 未整理資料の目録作成／資料調査

- 林家文書（本館）、熊谷家文書（本館）の未整理分の目録作成が完了し、2011（平成23）年度に引き続き受入のための準備作業として封筒・文書箱等への仕訳等の作業を実施し、準備作業が完了しました
- 昨年度に引き続き、松本家資料（医学図書館）の目録作成を行いました。

2. 電子化及びデジタル・アーカイブの充実

島根地域の国絵図に関する図書出版に合わせて、他機関や地域の個人が所蔵する国絵図を中心にデジタル画像化を行い、デジタル・アーカイブから公開しました（65点）。

3. 成果の公開

2009（平成21）年度に開催した企画展示「江戸を旅する・明治に学ぶ」で展示を行った島根地域の国絵図について、展示成果をまとめた図書『島根の国絵図』の編集作業を行い、12月に出版しました。（TOPICSにもあり）

4. 資料保存対策

2010（平成20）年度に行った劣化状況のサンプリング調査を基に、2011（平成23）年度に引き続きマイクロフィルム劣化対策として複製の作成を行いました。今年度は、劣化の著しい160巻の複製を作成しました。

5. その他

京都大学人文科学研究所が主催する「漢籍担当者研修」に職員を参加させ、漢籍に関する専門知識及びスキルの育成を図りました。

図書館の動向

■社会連携

大学図書館ならではのデジタル・コンテンツや貴重資料を通して、資料による社会貢献を継続して行っています。本館改修工事のため企画展示会は開催できませんでしたが、貴重資料の預け先である松江歴史館のご厚意により、コレクション展を開催していただくことができました。十分な設備のない当館ではこのような規模の展示は不可能で、まさにこれまでの地域連携の実績があったからこそこの企画といえます。

1. 物流による相互貸借

県内図書館との相互貸借は年々増加の傾向でしたが、今年度は大半の資料が箱詰め状態だったため、激減はやむを得ないところです。利用できる資料が限られてはいましたが、他館からの依頼にはできるだけ応えられるよう努めました。

■相互貸借冊数

	貸出冊数					借受冊数				
	2008	2009	2010	2011	2012	2008	2009	2010	2011	2012
島根県立大学（浜田）*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県立大学（松江）	13	6	7	8	3	1	1	3	4	6
島根県立大学（出雲）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松江高専	7	11	10	7	4	0	0	1	3	0
島根県立図書館	12	5	9	14	7	20	23	27	6	11
県立以外の公共図書館	12	22	96	120	53	5	6	3	19	4
合計	44	44	122	149	67	26	30	34	32	21

*島根県立大学（浜田）は、ILLにより対応している。

2. 島根大学附属図書館コレクション展

本館が所蔵する貴重資料を公開するコレクション展を松江歴史館で開催しました。小泉八雲の直筆書簡をはじめ、城下絵図、国絵図、島根県指定文化財である「大智度論」など貴重なものばかりで、一堂に揃った展示会は、これまでないものでした。市民の皆様にとって、本物を目にする貴重な機会となりました。（TOPICSにもあり）

日時： 2013(平成25)年2月23日(土)～3月10日(日)

会場： 松江歴史館



3. 貴重資料の貸出

図書館が所蔵する貴重資料について、地域で開催される展示会などに貸出を行いました。

○永田町絵図（本館・桑原文庫）

松江歴史館「秘仏ご開帳」（2012年6月2日～7月1日）へ貸出

○堀尾期松江城下町絵図（本館・レプリカ）

浜松市博物館「浜松城主 堀尾吉晴」（2012年10月20日～11月25日）へ貸出

4. 復興支援の図書収集

本館では、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた陸前高田市の図書館を支援する「陸前高田市図書館ゆめプロジェクト」に賛同し、復興支援のための図書の収集を行いました。このプロジェクトは、家で眠っている読み終わった本などを集めて業者が査定し、買取金額相当が図書館建設のために寄付されるというものです。2012年11月から翌年2月末まで仮設図書館で収集を行い、345冊の本が集まりました。



統計

■2012(平成24)年度データ

2012 Data

		本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計	
開 館 日 数	平 日	202	240		
	土・日・祝 日	38	88		
	合 計	240	328		
利 用 対 象 者 数 (平成25年5月1日現在)	教 職 員	2,659		2,659	
	学 生	6,200	1,123	7,323	
	学 外 者	643	70	713	
	合 計			10,695	
入 館 者 数	学 生・教 職 員	189,974	201,885	391,859	
	学 外 者		448	448	
	合 計	189,974	202,333	392,307	
貸 出 冊 数	学 生	35,500	13,013	48,513	
	教 職 員	2,514	2,331	4,845	
	学 外 者	1,371	358	1,729	
	合 計	39,385	15,702	55,087	
蔵 書 冊 数 (平成25年3月31日現在)	和 漢 書	586,840	70,675	657,515	
	洋 書	146,087	55,958	202,045	
	合 計	732,927	126,633	859,560	
図 書 受 入 冊 数	和漢書	購 入	7,497	2,227	9,724
		寄贈・その他	995	636	1,631
		計	8,492	2,863	11,355
	洋 書	購 入	655	346	1,001
		寄贈・その他	99	53	152
		計	754	399	1,153
	合 計		9,246	3,262	12,508
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌	8,414	2,237	10,651	
	洋 雑 誌	2,975	1,719	4,694	
	合 計	11,389	3,956	15,345	
雑 誌 受 入 種 類 数	和雑誌	購 入	569	180	749
		寄贈・その他	1,324	270	1,594
		計	1,893	450	2,343
	洋雑誌	購 入	175	73	248
		寄贈・その他	54	34	88
		計	229	107	336
合 計		2,122	557	2,679	
資 料 費 (千円)	学 生 用 図 書	16,238	6,167	22,405	
	雑 誌	5,231	3,820	9,051	
	小 計	21,469	9,987	31,456	
	デ ー タ ベ ー ス	9,700		9,700	
	電 子 ジャ ー ナ ル	87,766		87,766	
	合 計	128,922			
文 献 複 写 件 数	受 付	315	1,881	2,196	
	国 内 依 頼	3,156	2,136	5,292	
	海 外 依 頼	10	1	11	
現 物 貸 借 件 数	貸 出	55	22	77	
	借 受	435	43	478	

統計

■利用者

In-Library Users

本館は年度後半に耐震・機能改修工事を行ったため、大幅に利用者数が減少しました。

6月より新館を閉めました。旧館に資料を移してサービスを行ったことにより、若干の落ち込みはあるものの、8月前半までは前年と比較しても大きな差はありませんでした。

前期試験終了後の8月中旬から約1ヵ月間と翌年3月は移転のため完全閉館し、開館日数は前年度より68日減となりました。9月10日から2月末まで仮設図書館でのサービスを行いましたが、資料数、座席数とも大幅に減少したため、1

日平均の利用者数は200人足らずで、前年同期の1割ほどでした。

医学図書館では、前年に比べると後期の利用者が減っているため若干利用者数の減少がみられますが、2010年度並の利用となっています。

※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」（日本図書館協会編）に掲載の中国四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校（学部数2～7学部）7校（広島・岡山・鳴門教育大学を除く）の平均値を用いた。（以下同様）

■入館者数

		2008	2009	2010	2011	2012
本館	学生・教職員	333,097	320,458	308,935	342,100	
	学外者	10,033	10,846	11,247	10,618	
	小計	343,130	331,304	320,182	352,718	189,974
医学図書館	学生・教職員	175,151	191,149	201,531	223,570	201,885
	学外者	374	405	581	425	448
	小計	175,525	191,554	202,112	223,995	202,333
合計	518,655	522,858	522,294	576,713	392,307	

※本館の2012年度は改修工事のため、利用者別入館者数は不明



■月別入館者数



仮設図書館のため入館者数は1/10に減少



医学図書館も後期は減少

改修工事中は、貸出冊数の減少がさほどなかった（p.17参照）のに対して、入館者数は1割まで落ち込みました。これは、図書館が資料の貸出利用だけではなく、学修環境の提

供という重要な機能を果たしている事を示しています。リニューアル後の本館では、この学修環境の充実重点をおいています。

貸出 Circulation

本館では、閉館前の5月と7月に特別貸出（長期貸出）を行いました。大部分の資料が利用できなくなるため、特に5月は歴史分野を中心に貸出冊数が伸びました。

仮設図書館へ移転した9月以降は貸出冊数も減少しましたが、貸出期間を1週間としたため何度も借り出す利用者が多く、5割にとどまりました。仮設図書館へ移した図書は約37,000冊でしたが、過去の貸出状況等を考慮して、よく利用される資料を厳選した結果と言えます。

このほか、統計には表れていませんが、研究室に対して特別貸出（長期貸出）を行いました。73の研究室に対して、5,812冊を貸し出しました。後期の授業や卒業研究に必要な資料への対応をこの研究室特別貸出でお願いしており、例年に比べ減少した貸出冊数を概ねカバーしていると考えられます。

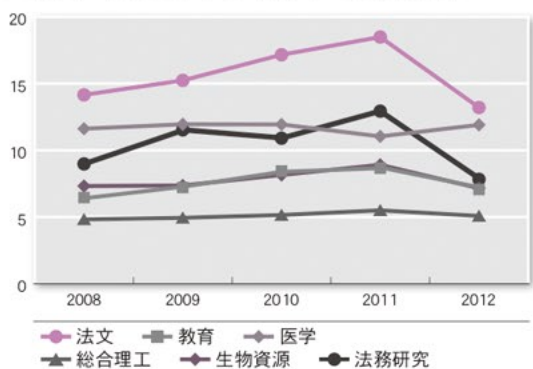
医学図書館では、昨年減少していた貸出に増加が見られます。また、本館の改修工事で箱詰めとなる資料の一部を借り受け、特設コーナーを設置しました。貸出回数は110回でした。

■貸出冊数

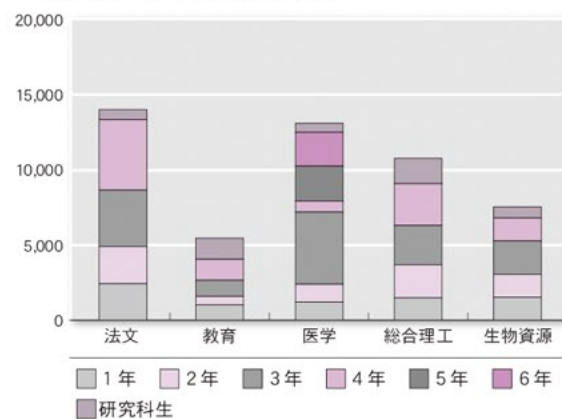
		2008	2009	2010	2011	2012
本館	学生	41,095	42,711	44,274	46,083	35,500
	教職員	3,814	4,209	4,018	4,546	2,514
	学外者	1,888	2,295	2,019	1,950	1,371
	小計	46,797	49,215	50,311	52,579	39,385
医学図書館	学生	11,429	11,717	12,205	11,720	13,013
	教職員	3,106	3,048	1,315	1,605	2,331
	学外者	536	501	612	618	358
	小計	15,071	15,266	14,132	13,943	15,702
合計	61,868	64,481	64,443	66,522	55,087	



■学生1人あたりの年間平均貸出冊数



■学部別／学年別貸出冊数



■月別貸出冊数



統計

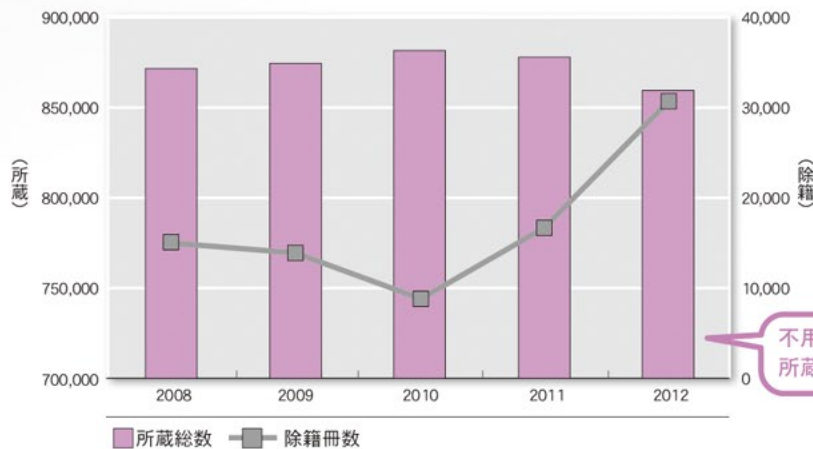
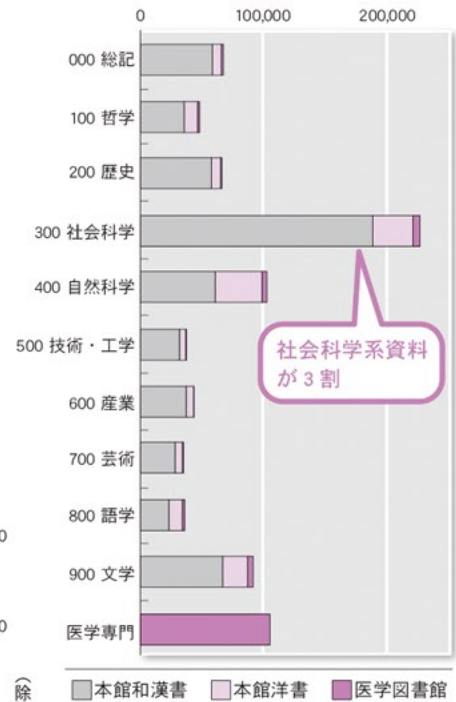
■ 図書 Books

本館の蔵書の分野別割合をみると、社会科学が全体の3割を占めており、自然科学、文学と続く構成になっています。洋書は全体の2割ほどで、自然科学系の資料が多い傾向にあります。また、医学図書館では医学専門書が8割強を占めています。

本館では改修工事前に、書庫内の重複図書の廃棄作業を集中して行いました。このため、例年に比べて除籍冊数が増えました。近年、蔵書冊数が減少しているのは、書庫狭域化対策として重複資料等の除籍を行っているためです。

■ 蔵書冊数 (分類別)

	本館			医学図書館	合計
	和漢書	洋書	小計		
000 総記	58,735	6,946	65,681	1,680	67,361
100 哲学	35,526	11,301	46,827	1,652	48,479
200 歴史	57,947	7,864	65,811	1,080	66,891
300 社会科学	187,653	33,355	221,008	4,580	225,588
400 自然科学	60,021	38,622	98,643	4,008	102,651
500 技術・工学	31,644	5,088	36,732	578	37,310
600 産業	36,894	5,862	42,756	250	43,006
700 芸術	28,373	5,773	34,146	918	35,064
800 語学	23,443	10,633	34,076	2,071	36,147
900 文学	66,646	20,601	87,247	4,556	91,803
医学専門	0	0	0	105,260	105,260
合計	586,882	146,045	732,927	126,633	859,560



■ 受入冊数

		2008	2009	2010	2011	2012	
本館	和漢書	購入	7,083	8,846	7,681	7,610	7,497
		寄贈-その他	3,210	4,743	3,817	2,270	995
		計	10,293	13,589	11,498	9,880	8,492
	洋書	購入	325	941	567	584	655
		寄贈-その他	505	259	1,545	148	99
		計	830	1,200	2,112	732	754
小計	11,123	14,789	13,610	10,612	9,246		
医学図書館	和漢書	購入	1,647	1,370	1,731	1,117	2,227
		寄贈-その他	293	505	242	963	636
		計	1,940	1,875	1,973	2,080	2,863
	洋書	購入	560	286	370	375	346
		寄贈-その他	22	35	31	34	53
		計	582	321	401	409	399
小計	2,522	2,196	2,374	2,489	3,262		
合計	13,645	16,985	15,984	13,101	12,508		



図書館資料費

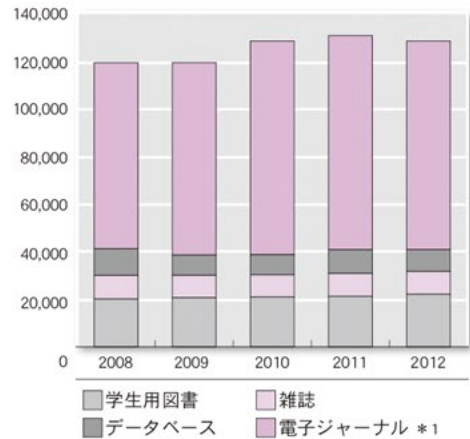
Expenditures for Library Materials

学生用図書、雑誌経費として共通経費が配分されるようになったため、購入規模が維持されています。また、資料費の大部分を占める電子ジャーナル経費も、全学共通経費や部局負担により維持されています。ここ数年は円高もあり価格上昇が抑えられていましたが、今後は円安等の影響が懸念されます。

本館の学生用図書購入冊数は少しずつ増えており、学生1人当たりの年間購入冊数が、ついに1冊を超えました。医学図書館でも購入冊数が増加していますが、医学図書は他の分野の図書に比べて高額なものが多いため、1人1冊にはまだ遠い状況にあります。

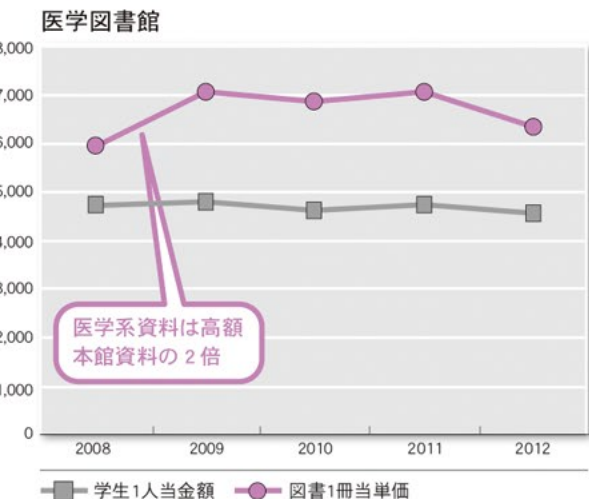
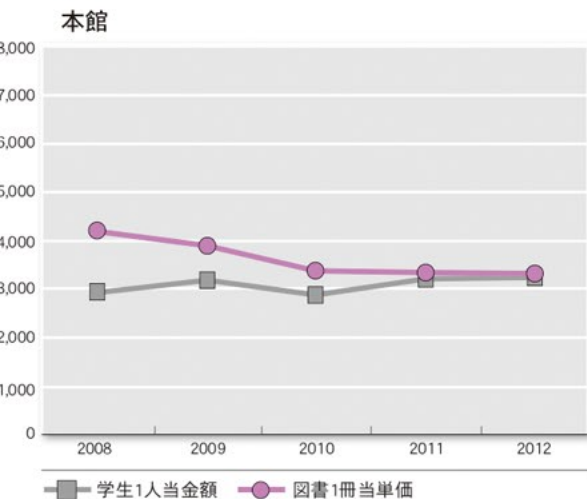
図書館資料費の推移

		2008	2009	2010	2011	2012
本館	学生用図書	15,203	15,651	15,376	15,704	16,238
	雑誌	6,227	5,759	5,920	5,666	5,231
	小計	21,430	21,410	21,296	21,370	21,469
医学図書館	学生用図書	5,226	5,361	5,306	6,127	6,167
	雑誌	3,736	3,461	3,617	3,864	3,820
	小計	8,962	8,822	8,923	9,991	9,987
データベース		11,239	8,372	8,893	9,743	9,700
電子ジャーナル*1		77,746	81,539	89,590	89,810	87,766
合計		119,377	120,143	128,702	130,914	128,922



*1 学術情報基盤整備計画(P.11参照)にかかる経費相当分

学生用図書



統計

雑誌

Periodicals

図書館備付雑誌は、国内で刊行されている和雑誌が中心です。洋雑誌は電子ジャーナルへの切替を進めたため、現在では数えるほどしかありません。

本館では配架、保存スペースが不足しており、2010（平成22）年度から寄贈雑誌の受入について見直しを行ってきました。所蔵雑誌の半数以上は、他大学、官公庁、学会、企業等からの寄贈ですが、大学や官公庁の刊行物はHPなどで電子版が公開されるケースが増えているため、受入基準の見直し

を進めています。また、電子ジャーナルのバックファイル購入などにより永続アクセス権のある雑誌については廃棄するなど、将来を見据えた書庫環境の維持に努めています。

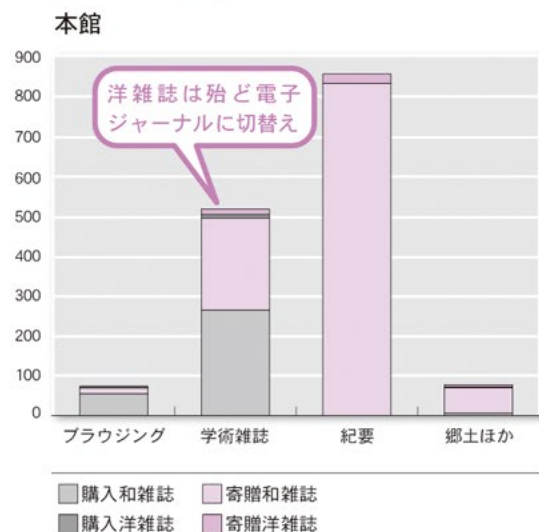
改修工事期間中は、購入雑誌の最新3年分のみを仮設図書館に配架しました。それ以外の雑誌は利用できない状況となりましたが、電子版が利用できる雑誌が増えてきていることとあわせて、学外への文献複写依頼は予想したほどの増加はありませんでした。

■受入種類数

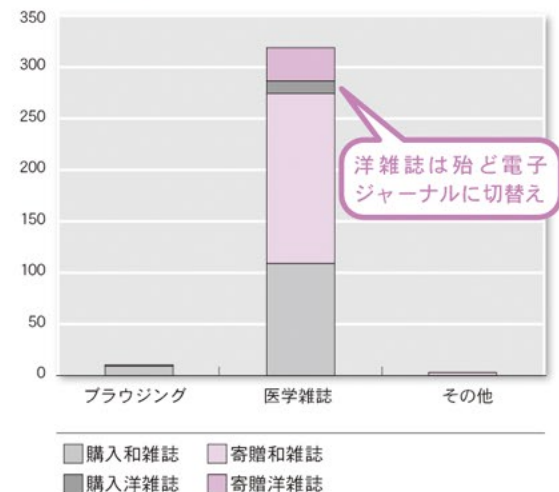
		2008	2009	2010	2011	2012	
本館	和雑誌	購入	631	604	590	572	569
		寄贈・その他	2,467	2,686	1,325	1,416	1,324
		計	3,098	3,290	1,915	1,988	1,893
	洋雑誌	購入	296	263	204	195	175
		寄贈・その他	137	142	62	52	54
		計	433	405	266	247	229
小計		3,531	3,695	2,181	2,235	2,122	
医学図書館	和雑誌	購入	191	212	181	212	180
		寄贈・その他	208	271	275	416	270
		計	399	483	456	628	450
	洋雑誌	購入	142	99	67	63	73
		寄贈・その他	48	68	66	32	34
		計	190	167	133	95	107
小計		589	650	589	723	557	
電子ジャーナル個別タイトル		-	-	49	44	44	
合計		4,120	4,345	2,819	3,002	2,723	



■所在別タイトル数



医学図書館



電子ジャーナル

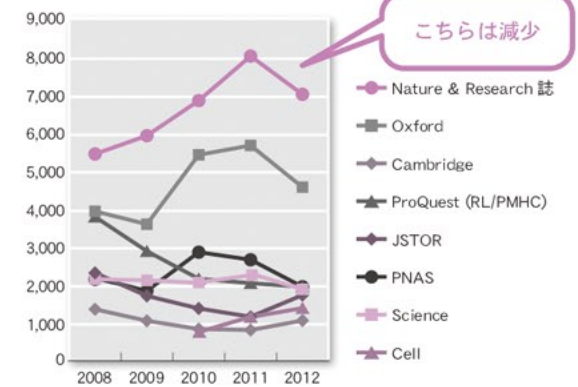
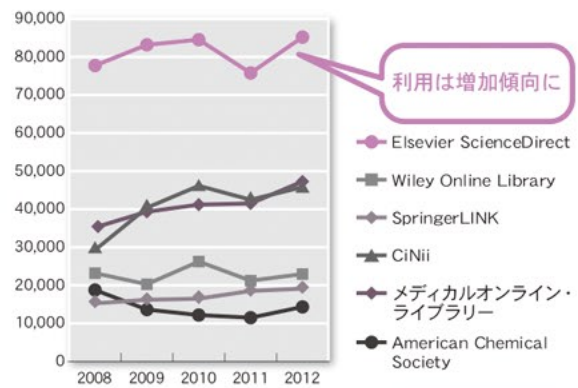
Electronic Journals

■契約タイトル数

電子ジャーナル経費(全学共通経費等)	Cambridge Online Package	洋	271
	Cell	洋	1
	Elsevier : ScienceDirect	洋	2,154
	JSTOR : Arts / Health & General Sciences*	洋	244
	Nature & Research誌	洋	5
	New England Journal of Medicine	洋	1
	Oxford Online Package	洋	165
	PNAS	洋	1
	ProQuest : Research Library / Health and Medical Complete *	洋	4,570
	Science	洋	1
	SpringerLINK	洋	1,710
	Wiley Online Library	洋	1,367
	CiNii (サイニイ)	和	441
	小計		10,931
部局経費	American Chemical Society (ACS)	洋	40
	American Physical Society (APS)	洋	8
	British Medical Journal (BMJ)	洋	28
	IEEE : CSDL	洋	27
	Karger	洋	76
	Lippincott Williams and Wilkins(LWW)	洋	57
	PsycARTICLES	洋	77
	Project Euclid	洋	30
	その他単体	洋	37
	メディカルオンライン*	和	897
	小計		1,277
タイトル数 合計		12,208	

*アグリゲータ系(複数出版社のタイトルを集めたパッケージ。全文収録タイトル数)

■主要電子ジャーナルの利用状況



■ダウンロード数の多いタイトル(Top20)

順位	タイトル	プラットフォーム	ダウンロード数
1	Journal of Biologicala Chemistry	American Society for Biochemistry and Molecular Biology	5,703
2	Nature	Nature Publishing Group	5,266
3	New England Journal of Medicine	Massachusetts Medical Society	5,066
4	Journal of the American Chemical Society	American Chemical Society	3,516
5	The Journal of Organic Chemistry	American Chemical Society	2,986
6	PNAS	National Academy of Sciences	2,302
7	Science	American Association for the Advancement of Science	1,952
8	Blood	American Society of Hematology	1,850
9	Journal of Clinical Oncology	American Society of Clinical Oncology	1,653
10	Scientia Horticulturæ	Elsevier ScienceDirect	1,650
11	Organic Letters	American Chemical Society	1,488
12	Cell	Elsevier ScienceDirect	1,406
13	Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism	Endocrine Society	1,279
14	日本教育心理学会総会発表論文集	CiNii	1,274
15	The Journal of Immunology	American Association of Immunologists	1,254
16	Cancer Research	American Association for Cancer Research	1,220
17	医学のあゆみ	メディカルオンライン	1,208
18	The Lancet	Elsevier ScienceDirect	1,188
19	日本機械学会論文集. C編	CiNii	1,122
20	Tetrahedron Letters	Elsevier ScienceDirect	1,090

円高により価格上昇が抑えられたため、前年度とほぼ同規模の電子ジャーナルを維持することができました。さらにパッケージ収録タイトル数の増加に伴い、利用できるタイトル数はここ数年微増傾向にあります。

上のグラフは、主要電子ジャーナルパッケージごとの利用状況(フルテキストのダウンロード数)です。利用数に大きな開きがあるのは、パッケージに含まれるタイトル数の差も影響しています。

5年間の利用状況をみたグラフでは、昨年減少した「Elsevier ScienceDirect」「Wiley Online Library」などが増加に転じていることが分かります。一方で「Nature」「PNAS」「Oxford」などは利用が落ち込みました。

左の表は、タイトル別のダウンロードランキングです。タイトルベースで見ると、プラットフォームの規模に関係なく利用されていることがわかります。例年、上位を占める雑誌はほぼ同じで、特にJBC、Nature、NEJMの3誌が前年と同様トップ3を占め、ダウンロード数も突出しています。8位以降の順位は入れ替わりが起っていますが、何れもダウンロード数が増えています。

ダウンロード数が増えたことにより入れ替わりが起っています

統計

Webサービス

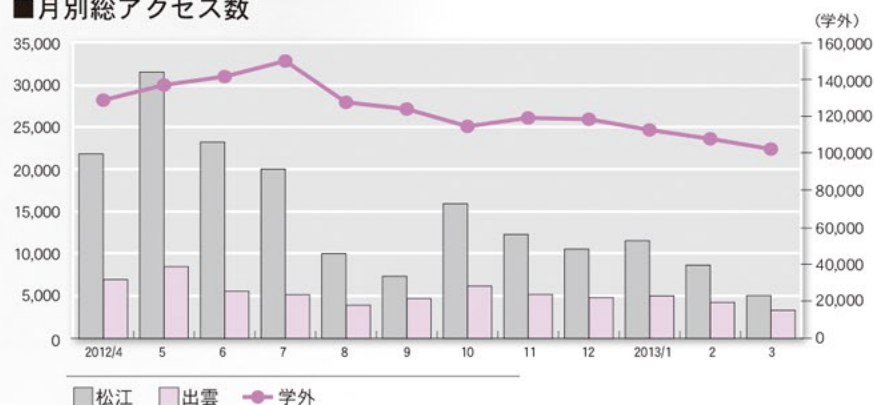
WWW menu

ホームページは、図書館サービスのポータルとして様々なコンテンツを備え、提供しています。情報検索はもちろん、MyOPACを通じて、来館しなくてもサービスが受けられるようになっています。

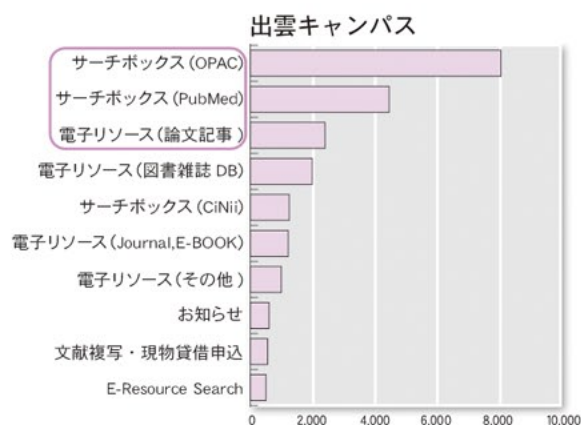
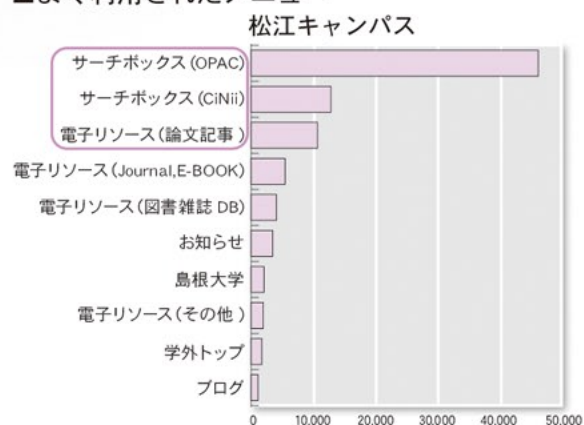
松江キャンパスでは、長期休業期間中は減るものの、年間を通じてよく利用されています。特に、情報検索講習会や授業で頻繁に利用する5～6月は、毎年利用が多くなっています。出雲キャンパスでは年間を通して利用があります。

利用の多いメニューを見てみると、両キャンパスともトップページに用意している検索ボックスのメニューと、電子リソース(ARB)が上位を占めています。検索ボックスの中で最も利用が多いのはOPAC(蔵書検索)ですが、これに続いて、松江キャンパスでは論文検索用のCiNii、出雲キャンパスではPubMedがよく使われており、それぞれのキャンパスの学部構成、研究分野を反映しています。

■月別総アクセス数



■よく利用されたメニュー

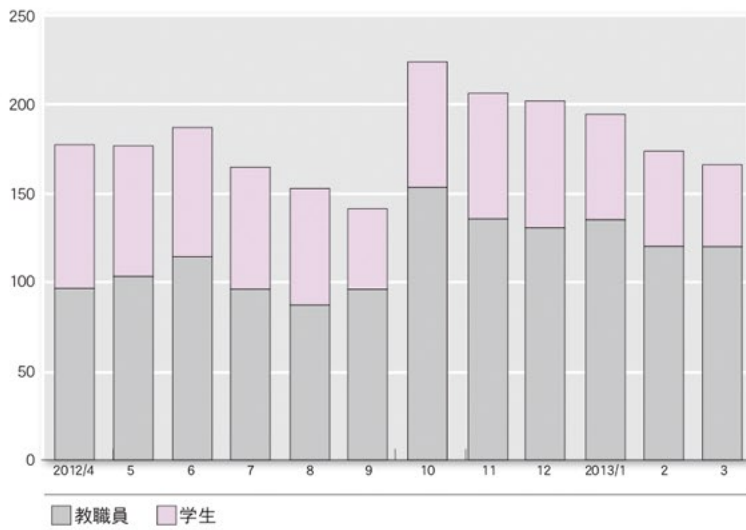


■電子リソース(ARB)利用状況

松江キャンパス			出雲キャンパス	
順位	メニュー	アクセス数	メニュー	アクセス数
1	Web of Science	2,465	医中誌Web	6,138
2	CiNii	1,955	PubMed	3,557
3	ジャパンナレッジ (JapanKnowledge)	1,246	メディカルオンライン	1,545
4	島大OPAC	1,054	UpToDate	469
5	朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」	1,035	JCR (Journal Citation Reports)	349
6	日経テレコン21	924	E-Resource Search	348
7	E-Resource Search	605	Web of Science	337
8	ヨミダス歴史館	576	島大OPAC	324
9	島大アカデミック・サーチ	503	CINAHL	263
10	Current Contents Connect	354	最新看護索引web	215

検索ボックスから利用できない電子ジャーナルやデータベースは、電子リソース(ARB)を利用すると効率よく検索できます。利用状況を見ると、両キャンパスの利用の特徴がよくわかります。松江キャンパスでは論文検索以外の辞書(ジャパンナレッジ)や新聞データベースがよく利用されており、出雲キャンパスでは「医中誌Web」「メディカルオンライン」等、検索ボックスから利用できない論文検索データベースの利用が多くなっています。

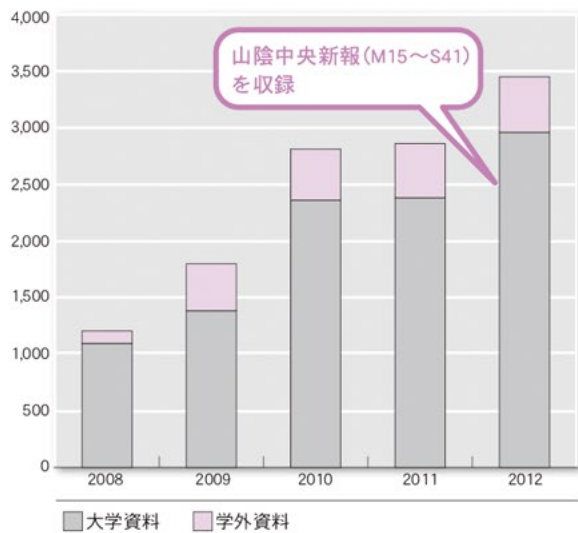
■EZproxyログイン件数



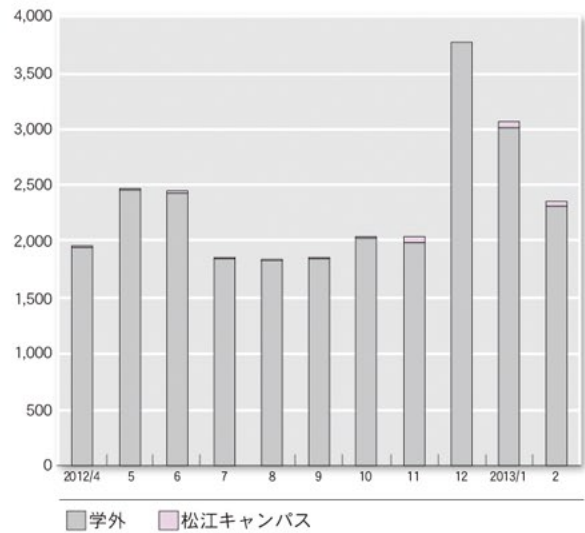
順位	サイト	件数
1	PubMed	31,057
2	AMS	6,116
3	ScienceDirect	4,981
4	Wiley	2,627
5	CiNii	2,265
6	E-Resource Search	1,878
7	Google Scholar	1,719
8	ACS	1,516
9	Web of Knowledge	1,191
10	SpringerLINK	1,116

EZproxyは、学外から本学で契約しているデータベース、電子ジャーナルを利用できるサービスです。自宅や出張先からでも利用できるため、学生よりも教員のアクセスが多くなっています。

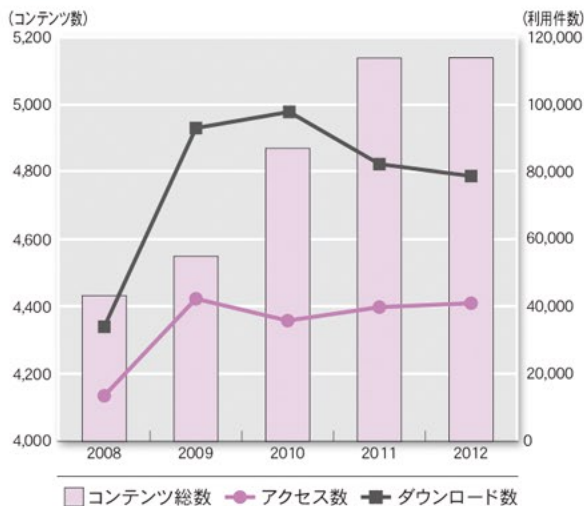
■デジタル・アーカイブ収録コンテンツ数



■デジタル・アーカイブ月別アクセス数



■島根大学学術情報リポジトリ



デジタル・アーカイブシステムは、本学所蔵の貴重資料のほか、学外の個人や機関が所蔵する資料についても電子化し、ホームページで閲覧できるようにしたものです。毎年計画的に登録作業を行っており、収録コンテンツは年々増えていきます。

2012（平成24）年度は、山陰中央新報の前紙を含め、明治15年から昭和41年までを、学内限定で公開することができました。地元紙としてこれまでも利用が多かったもので、マイクロフィルムの劣化対策と併せて学内利用環境の整備を行いました。

島根大学学術情報リポジトリは、本学の紀要論文を中心に公開しています。2012年度はコンテンツが伸び悩んでいますが、ダウンロード数は80,000件で安定してきています。

統計

相互協力

Interlibrary Loan

■文献複写件数

		2008	2009	2010	2011	2012
本館	受付	1,260	1,469	1,243	1,294	315
	国内依頼	4,039	3,666	3,954	2,910	3,156
	海外依頼	25	9	12	8	10
	依頼小計	4,064	3,675	3,966	2,918	3,166
医学図書館	受付	2,687	2,422	1,994	2,182	1,881
	国内依頼	3,190	3,303	1,950	2,115	2,136
	海外依頼	13	15	2	0	1
	依頼小計	3,203	3,318	1,952	2,115	2,137

■現物貸借件数

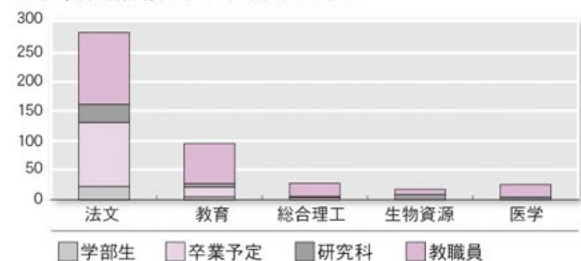
		2008	2009	2010	2011	2012
本館	貸出	266	307	368	413	55
	借受	501	565	632	478	435
医学図書館	貸出	17	9	9	41	22
	借受	24	29	21	18	43

※県内公共図書館との貸借分を含む。

■文献複写依頼の学部別内訳



■現物貸借借受の学部別内訳



本館は改修工事のため、受付業務がほとんどできませんでした。また、利用できる資料に限られていた割りに、依頼件数はさほど増えませんでした。電子ジャーナルや機関リポジトリによる電子資料の利用が普及してきたことの影響で、中四国平均も同様に減少傾向です。

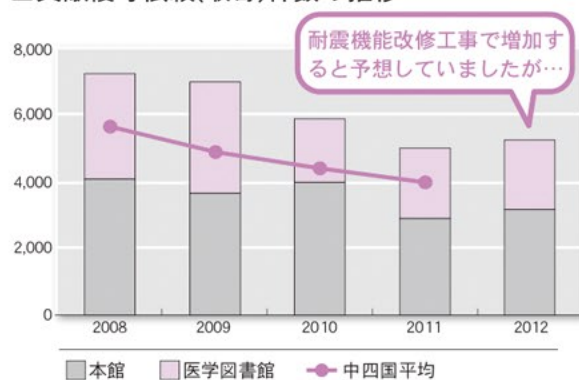
文献複写の依頼では、法文学部と医学部が極端に多くなっています。人文科学系では広範囲な分野の資料が必要とされていること、電子化が遅れていること、医学系では多数の契約電子ジャーナルがあるにもかかわらず、欲しい論文が十分に含まれていないことなどが考えられます。

現物貸借の借受では、本館は減少傾向に転じています。改修工事にあたっては、大幅な借受増加を見込んで送料の補助も決定していましたが、実際には減少しました。特別貸出で事前に確保しておいたり、手近にある代替資料や電子資料の利用が行われたためと考えられます。

■文献複写受付(提供)件数の推移



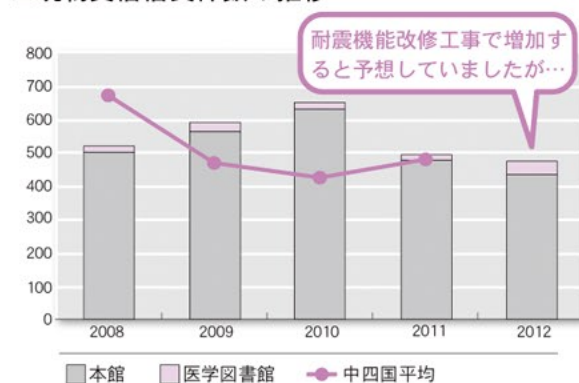
■文献複写依頼(取寄)件数の推移



■現物貸借貸出件数の推移



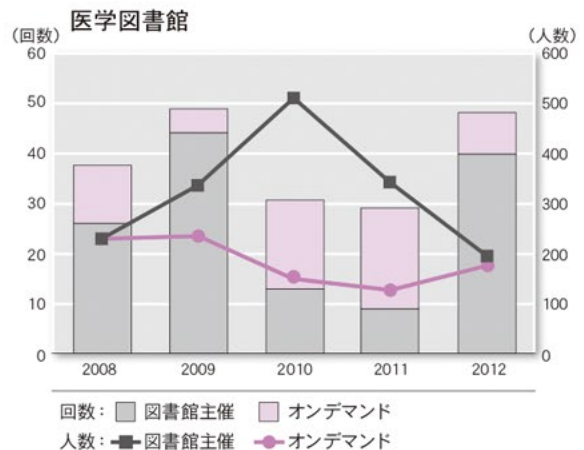
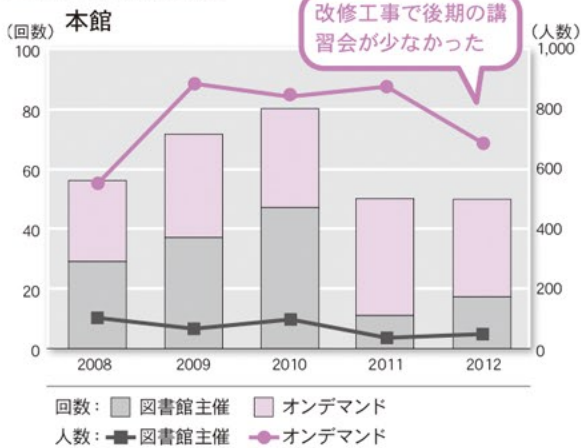
■現物貸借借受件数の推移



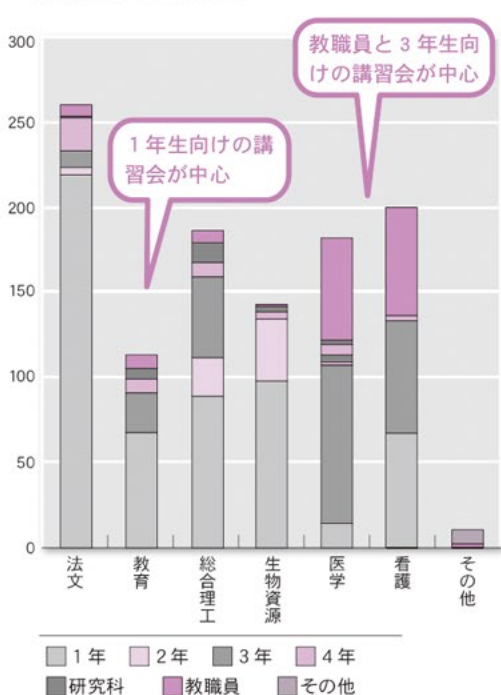
■ 学術情報リテラシー講習会

			2008	2009	2010	2011	2012
本館	図書館主催	回数	29	37	47	11	17
		参加者数	100	66	97	29	42
	オンデマンド	回数	27	35	33	39	33
		参加者数	551	883	845	872	683
医学図書館	図書館主催	回数	26	44	13	9	40
		参加者数	220	336	509	343	198
	オンデマンド	回数	12	5	18	20	8
		参加者数	229	233	153	129	175
参加総数			1,100	1,518	1,604	1,373	1,098

■ 講習会開催状況



■ 講習会参加者内訳



本館と医学図書館では、学術情報リテラシー講習会の開催方法や内容が若干違います。学部により必要とされる資料や利用方法が異なるため、それぞれのキャンパスに適した講習の内容や方法を模索しながら開催しています。

本館では、講習会を図書館主催からオンデマンド講習会（授業と連動した講習会）中心に切り替えました。2012年度は改修工事のため、前期に集中して行いましたが、オンデマンドでの講習会が減っています。

医学図書館では、図書館主催・オンデマンド講習会共に力を入れています。しかし、新入生オリエンテーションで行っていた講習が資料配布のみとなったため、参加者は減少しました。オンデマンド講習会での参加人数は増加しています。

講習会参加者内訳を見ると、法文学部・総合理工学部・医学部の参加者数が多くなっています。図書館の資料そのもの、あるいは電子ジャーナルや文献検索の利用が多い学部はまず講習をしっかりと受け、その後の図書館利用に繋がっていくようです。

学年別では、1年と3年の参加者数が多い事がわかります。本館では、まず1年のうちにオンデマンド講習会を通じてOPAC検索など、図書館の基本的な利用方法を学ばせるという考え方が定着してきており、4月から6月にかけては講習会で賑わいます。

2年以上になると、各分野に合わせたデータベースの利用方法を中心としたものとなります。授業や論文執筆に向けて専門分野の論文検索の必要が出てくる3年生になると、再び参加者が増えます。

図書館日誌

図書館日誌 (2012.4~2013.3)

日付	全学・松江キャンパス（本館）	出雲キャンパス（医学図書館）
2012年 4月23日		第1回医学図書館運営委員会
5月 7日	コンシェルジュ活動開始 館内展示「中国の世界遺産写真展」(22日まで)	
5月 9日	新任教員図書館ガイダンス 不用雑誌無料提供会(10日まで)	
5月22日		講座事務担当者向け説明会
5月28日	第1回附属図書館運営委員会	
5月30日	第8回蔵書リユース市(6月1日まで)	
6月 1日	改修工事のため新館閉館	
6月13日	学生選書ツアー	
6月18日	第1回本館運営専門委員会	
6月19日	中学生職場体験 1名を受け入れ	
8月11日	改修工事のため全館閉館(9月17日まで)	
9月10日	学生協働交流シンポジウム(11日まで 会場:島根県立大学浜田キャンパス) 仮設図書館開館(2月28日まで)	
10月25日	全国図書館大会島根県大会開催(26日まで 会場:くにびきメッセほか)	
10月30日		第21回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会(会場:島根県立中央病院)
11月15日	全国遺跡資料リポジトリ・シンポジウム(会場:大阪大学)	
11月30日	新館竣工	
12月 7日	出版記者会見	
12月10日	『島根の国絵図』出版	
12月26日		蔵書点検
2013年 1月18日	第2回附属図書館運営委員会 第2回本館運営専門委員会	
2月23日	島根大学附属図書館コレクション展(3月10日まで 会場:松江歴史館)	
2月28日	旧館竣工 仮設図書館閉館	
3月21日		閲覧室照明のセンサー取付工事

刊行物

2012年 7月	島根大学附属図書館年報2011 A4判、28P.
2013年 1月	図書館報「沁雲」第14号 A4判、20p. 特集:新聞で見る島根大学のあゆみ ほか
3月	利用案内2013(本館)
月1~2回刊	LiMe:ライム(No.33~46)
月刊	インフォアクセス(Vo.8 No.4~Vol.9 No.3)

新聞・テレビ等の報道

2012年 5月22日	雨の日用オリジナルバッグの紹介	NHKニュース 島根版
5月14日	同上	文教ニュース No.2188
5月30日	第8回蔵書リユース市	NHKニュース 島根版
5月30日	同上	マーブルTV(山陰ケーブルテレビジョン)
6月14日	学生選書ツアー	同上
6月25日	遺跡資料リポジトリ	朝日新聞

7月 5日	学生選書ツアーほか	同上
8月16日	学生選書ツアー、コンシェルジュほか	山陰中央新報
9月11日	学生協働交流シンポジウム	同上
9月14日	遺跡資料リポジトリ	同上
11月16日	全国図書館大会島根県大会分科会報告	同上
11月19日	全国図書館大会島根県大会	文教ニュース No.2215
11月23日	国絵図図書出版予定	山陰中央新報
12月 8日	国絵図図書出版	島根日日新聞
12月11日	同上	読売新聞
12月24日	同上	文教ニュース No.2220
12月30日	同上	中国新聞
12月31日	同上	毎日新聞
2013年 1月27日	国絵図図書書評 (田坂郁夫・法文学部教授)	山陰中央新報
2月 6日	松江歴史館による特別公開「島根大学附属図書館コレクション展」	同上
2月13日	同上	産経新聞
2月15日	同上	島根日日新聞
2月15日	図書館コレクション展発表会見	同上
2月19日	図書館コレクション展開催	毎日新聞
2月22日	同上	中国新聞
2月24日	同上	山陰中央新報
2月24日	同上	朝日新聞
2月24日	同上	読売新聞
2月24日	同上	NHKニュース 島根版

■人事異動

【2012（平成24）年4月1日発令】

氏名	異動後	異動前
廣田 秋彦	医学図書館長（兼務）	医学部教授
高木 貞治	採用 学術国際部図書情報課長	長崎大学学術情報部学術情報サービス課長
金子 尚登	採用 学術国際部図書情報課係長（情報サービス学術情報担当）	鳥取大学学術情報部図書館情報課主任
飯田 啓子	再雇用更新	学術国際部図書情報課図書職員（企画・整備Gコンテンツ担当）
加本 純夫	再雇用更新	学術国際部図書情報課図書職員（医学情報G）
吉井 紀子	再雇用更新	学術国際部図書情報課図書職員（医学情報G）

【10月1日発令】

氏名	異動後	異動前
小林 奈緒子	学術国際部図書情報課事務職員（情報サービス資料利用担当）	学術国際部図書情報課事務職員（医学情報G）
錦織 亜希子	学術国際部図書情報課図書職員（医学情報G）	学術国際部図書情報課図書職員（情報サービス資料利用担当）

【2013（平成25）年3月31日発令】

氏名	異動後	異動前
福島 祐子	退職	学術国際部図書情報課有期雇用職員（企画・整備Gコンテンツ担当）
落合 早紀	退職	学術国際部図書情報課有期雇用職員（企画・整備Gコンテンツ担当）



SHIMANE
UNIVERSITY LIBRARY
Annual Report
2012

島根大学学術情報機構
附属図書館年報

2013年(平成25年)7月発行

発行/島根大学附属図書館

本館/〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6083 FAX 32-6089
医学図書館/〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL 0853-20-2092 FAX 20-2095